

勝林寺寺報

真実明ニ帰命セヨ

つい最近、東京という町に、「子ども貸します」という宣伝文句の新商売がありました。

東京にも田舎と同じように、子や孫がいながら一緒に住めない、孤独なお年寄りがいるようです。この淋しいお年寄りがお得意様です。

いくら待っても息子夫婦は見向きもしてくれない。どんなに頼んでも孫たちさえよこしてくれない。毎日が淋しくて切なくて。

そんなおじいちゃん、おばあちゃんのところへ、ある日曜日、息子夫婦が孫をつれて遊びにやってきます。

息子夫婦がいいます。「お約束の時間が参りました。十五万円いただきます。」

おわかりでしょうか、息子夫婦も孫も、実はみんな他人どうし。レンタル会社から派遣されてきたニセモノ家族なのです。

この「こども貸します、孫かします」サービス」といっていますが、あなたはいかがでしょう。

ほんものが、だんだんなくなってしまつた今、せめてニセモノで心を慰めよう、二セモノで渴きを癒そうとするのは、どうやら最近の一般的傾向です。

1993(平成5)年の主な行事

1月	16	総代会
	15	成人式
2月	7	代議員会
	11	仏壯総会・理事会
	14	仏婦評議員会・ダーナの日
	17・8	教区総代研修会(舞子ビラ)
3月	23	春彼岸会
	14	法輪会春季研修会
4月	3	前往職・坊守十三回忌法事
	17	仏婦総連盟総会
	18	戦没者追悼法要(本廟)
	24	春季研修会
	25	出石組《連研》
6月	5	出石組組会
		出石組念佛奉仕団
	13	出石組仏婦総会
7月	3	おみがき奉仕
	4	出石組仏壯総会
	8	永代経
	9	永代経・仏婦総会・展示会
	18	出石組《連研》
	24	前坊守三回忌法事
8月	8	戦没者追悼孟蘭盆会法要
	11~15	初盆参り・盆まいり
	19	こども研修会
9月	5	出石組御同朋結集大会
	25	秋彼岸会
	26	出石組《連研》
10月	23	別修報恩講
11月	14	法輪会秋季研修会
	17	おみがき奉仕
	21・2	報恩講
12月	5	合同役員研修会
	26	みのりを聞く会歳末会

《勝林寺寺報》 每月1日発行
テレホン法話 1・10・20日に
みのりを聞く会 每月26日
玉日会 每月10日
十六夜会 每月16日

ほんものの真実が見分けにくくなっている私たちに、親鸞さまは「真実明に帰命せよ」とよびかけてくださいます。

「真実」というのはイツワラズ・ヘツラワズ。人の弱みや切なさにつけこんで、へつらいイツワる神や仏ではなく、いつもどこでも私のいのちのより所とはたらいてくださる「無量寿・無量光」の南無阿弥陀仏をためよと、親鸞さまはおすすめ下さるのです。

スパーに並んでいる商品の殆どはコピーアイテムとよばれるニセモノばかりです。季節の本物野菜などありません。姿かたちはよくても「ときじく野菜」ニセモノ野菜です。人造イクラ。ニセ数の子。模造カラスミ。ニセほたて、ニセかに足などなど。

ニセモノ洪水のなかで、今の若い人は、なにが本物か見分けがつかなくなっています。

欲求不満につけこんで、うわべ格好のいいニセモノで人をさそい、人の一時の欲望を満足させ、金儲けをしようとするのです。思えば恐ろしいことではありますせんか。

ピーチ商品とよばれるニセモノばかりです。

頌春

後継者
住職

監査	仏壯	顧問	副会長	会計事務局	会計事務局	副会長	会長	仏婦	事務局	会計	事務局
古田	宮崎	生田	関岡	中嶋	横山	斎藤	大龜井	西池	森戸	西池	西池
石坪	福島	田中	亀井	森	斎藤	中嶋	石坪	幸男	三代治	坪口	坪口
富嶋	永井	永井	永井	永井	永井	永井	永井	深音	正治	報恩講	報恩講
生田	孝	孝	孝	孝	孝	孝	孝	匡	哲俊	会	会
古田	千秋	昭	弘	武志	保	正和	耕三	善七	敏雄	保夫	基幹運動本部
西池	久男	昭	三	志	和	和	三	七	三	三	第二部会
西池	三秋	千秋	千秋	和	和	和	和	三	三	八	六日
西池	耕三	耕三	耕三	和	和	和	和	三	三	九日	一日
西池	美幸	正和	正和	和	和	和	和	三	三	八日	二日
西池	匡	和	和	和	和	和	和	三	三	七日	五日
西池	哲俊	和	和	和	和	和	和	三	三	九日	四日

一月のことよみ

- 一日 修正会・初参り
- 二日 初参り
- 三日 但東町初参り
- 四日 坪口報恩講
- 五日 基幹運動本部第二部会
- 六日 鳥取山根願正寺ゼミナール
- 七日 出石町内報恩講・玉日会定例法座
- 八日 梶見報恩講
- 九日 梶見報恩講
- 十日 講
- 十一日 和屋報恩講・町内報恩講
- 十二日 足立富喜夫氏宅法事
- 十三日 総代会・十六夜会定例法座
- 十四日 基幹運動本部第一部会
- 十五日 和屋報恩講・町内報恩講
- 十六日 足立富喜夫氏宅法事
- 十七日 総代会・十六夜会定例法座
- 十八日 基幹運動本部第一部会
- 十九日 講
- 二十日 和屋報恩講・町内報恩講
- 廿一日 足立富喜夫氏宅法事
- 廿二日 総代会・十六夜会定例法座
- 廿三日 基幹運動本部第一部会
- 廿四日 和屋報恩講・町内報恩講
- 廿五日 足立富喜夫氏宅法事
- 廿六日 総代会・十六夜会定例法座
- 廿七日 基幹運動本部第一部会
- 廿八日 和屋報恩講・町内報恩講
- 廿九日 足立富喜夫氏宅法事
- 三十日 総代会・十六夜会定例法座
- 一月一日 和屋報恩講・町内報恩講



秋から冬にかけては、落ち葉の多い季節です。くすの木、かやの木、かしの落ち葉などもみじ、イチヨウ、さくらの落ち葉などなど。

掃いても掃いても次から次に、道路いっぱいに散り敷く落ち葉を毎朝掃いていると、道行く早朝散歩の人たちや、牛乳配達のおじさんまでが、「ごくろうさんですか」とあいさつをしてくださいます。

なかにはわざわざ立ち止まって、「こんなさいさつをおくってくださいる方もあります。

「毎朝ごくろうさんですね。おかげで町がきれいになります。しかし、それにして大変なことです。こんなにいっぱいに葉を散らす大きな木は、役場で言つて、切り倒してもらつたらどうでしょう。こんな大木、切り倒しさえしたら、落ち葉掃かんでも、町はきれいになりますしなあ。イヤほんとうにごくろうさんです」

労をねぎらつてくださる思いやりのことばをありがたく思ひながらも、私は、なんだか、つい淋しい思いにとらわれてしまします。「大きな木、切り倒したりしないでください」と叫びたくなつてしまふのです。

ここ何年か、枯れ葉・落ち葉を、毎朝掃いているうちに、私にはだんだん大きな木々のいのち、自然のおおきいのちの息づかいや声が聞こえてくるようになりました。

季節季節に、さかんに葉を落とし葉を散らしながら、つきの新しい新芽や花を萌えださせようと懸命に生き続けているこれら大木のいのちの呼吸が、ありあり

と伝わってくるのです。

と共に、この私の小さいのちも、木たち大きな自然の呼吸のなかで、生かされていることを実感するのです。

とてつもない大きな自然のいのちのかに、包まれはぐくまれている私のいのちを、毎朝の落ち葉掃きで、感じさせていただいているのです。

考えてみると、最近の私たちちは、ちっぽけな自分の利益・都合で、「落ち葉を散らす大木など、切り倒してしまえ」というわけで、わたしのくらしからも、町からも、大事な自然を切り倒し切り離してしまっているのではないのでしょうか。

仏教婦人会大会に参加

仏婦役員 福富はる子

さる十二月十日、この大会に勝林寺より生田会長様と出席させていただきました。

出石組仏婦連盟役員さまの引率により二十六名の一行は、午前六時、朝もや立ち込こめるなかをマイクロで出発。奈良・橿原神宮近くの会場(県立橿原第一体育館)に四時間余りで到着することができました。

三千八百名の参加者で埋められた会場でした。私が私たちの席はさいわいにも前列に指定されており、ご臨席の総裁さまをまのあたりに拝顔できたことは、格別の感銘でございました。

大会テーマは「同朋教団のよろこび」と設定されていました。宗門がかねてよりかがげている基幹運動の理念を踏まえ、部落差別を始めとするあらゆる差別を、社会からも私からもなくしていくためには、まず第一に、差別が現にどういうかたちで私たちの周囲に存在するのかということが、まず学ばなければならぬという方向で、この大会は進められていたようになります。

「み光につつまれて生きる」・「女を護る壁」という基調講演、三名のパネラーによる討論、それにつづく三教区代表の方々の(部落・障害者・女性差別について)意見発表は、すべて大会テーマに沿つて進められてまいりました。

つまり、「昔のこと」「今はもうない」といわれたり、さらには、「寝た子を起こすなど」と言われながらも、今なお社会一般に厳然と残る様々な差別について、まず目をひらき学び直そう。またこれら差別をひと事他人事として見過ごすではなく、わたしと言つて見過ごすではなく、わたしと言つて見過ごす人間のこころや暮らしの奥底にひそむ差別をとりあい、互いに正しあい助け合つて、身近かなところから活動していくところに「同朋教団(を生きるもの)のよろこび」があるのではないかということであつたと思います。

佛教婦人としての知識・理解に乏しい私ではありました。この大会に参加させていたたまつなりに、厳しく自分を見つめる機縁を与えていただきましたことを感謝して、報告にかえさせていただきます。

役員様へ

一月から二月にかけて、次の会議が開かれます。

今からおこころづもりをお願いします。

総代会	一月十六日(土)午後一時
仏壯総会	二月七日(日)午前九時
仏婦評議員会	二月十四日(日)

福富はる子

老人介護

だれでも年が寄ると骨がもろくなります。介護するにもよほど気を付けなければなりません。

食事のうえでも平素からの気配りが必要です。

介護者のつどいで工夫した献立です。

仏婦会員

焼きざすの炊き込みご飯

(材料)

①米を洗い昆布を入れて三〇分おく。②牛蒡は小さいささがきにび、水にさらす。人参は千切り。③焼きざすは頭・骨を取り小さくぼぐしておく。④米のなかの昆布を取り、焼きざす・野菜・調味料をいれて炊く。

☆焼きサバを使つてもおいしくできます。

①切り干し大根の中華風サラダ (四人分)
 (材料) 切り干し大根 80g わかめ・かいわれ葉・蟹風味かまぼこ 各40g
 A 調味料 (砂糖 大さじ1.5) 胡麻油 大さじ1 中華味の素 少々
 (作り方) ①切り干し大根は戻し、食べやすい長さに切り、サツとゆでる。わかめも同様にする。
 ②かいわれ葉は根をとり、かに風味かまぼこはほぐす。

③ A 調味料を合わせて、①と②とを和える。

けこのしづけみに
あけそめし
しらじらと
いかられている
よろこびをしる



0796-52-3083